



一橋大学
イノベーション研究センター

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research



ANNUAL REPORT

2025年度

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

IIR

ANNUAL REPORT

2025年度

ANNUAL REPORT 2025年度

INDEX

目次

はじめに	
一橋大学イノベーション研究センターについて	i
I. 研究活動	01
1) イノベーション研究フォーラム	02
2) ブラウンバッグランチセミナー	03
3) 国際シンポジウム等	04
II. 研究員	07
1) 専任研究員	08
2) 特任研究員	21
3) 兼任研究員	22
4) 外国人研究員（客員）	22
III. 教育活動	23
1) 講義	24
2) イノベーションマネジメント・政策プログラム	31
IV. 研究成果および刊行物	33
1) 一橋ビジネスレビュー	34

一橋大学イノベーション研究センターについて

一橋大学イノベーション研究センター（IIR）は、以下3つのミッションを達成するために1997年4月に発足しました。

- － イノベーションの実証かつ理論的研究の実施
- － イノベーションに関する理論と実践の架け橋になること
- － 世界に開かれた研究拠点・知識融合の場となること

このようにIIRは、イノベーションに関する学術研究にとどまらず、広く実業界とも連携した世界的研究拠点を目指しています。

技術革新から組織革新に至るイノベーションが、社会発展に大きく貢献してきたことは歴史を垣間見れば容易に理解されます。日本のような天然資源に乏しく多くの人口を抱える国が発展を続けるためには、自ら「イノベーション」を生み出すことが必須です。特に欧米諸国にキャッチアップするかたちでの成長が望めなくなった1990年代以降、イノベーションの重要性は大きく高まりました。しかしながら、発明が生まれ、それが産業発展へと実を結ぶまでの長いイノベーションの生成プロセスに対する私たちの理解はいまだ不十分な状況にあります。

イノベーションはすぐれて社会的な営みです。それは経済、政治、組織、歴史、法制度などが相互に関連した複雑な社会現象であり、このプロセスを解明するには、社会科学の様々な専門領域が結集すると同時に、自然科学の知見も取り込みながら、学際的かつ体系的に研究を行う「場」が必要となります。IIRが、日本における産業経営研究の中核組織であった一橋大学商学部附属産業経営研究施設（＝産業経営研究所）を発展改組するかたちで設立された背景には、こうした時代の要請がありました。

IIRの研究領域には、技術、組織、経営手法などのイノベーションを促進する要因を解明する「技術革新研究」・「経営革新研究」、イノベーションの主体である革新者個人の特徴を解明する「革新者研究」、企業、大学、個人などの主体間のつながり方がイノベーションに与える影響を解明する「ネットワーク研究」、イノベーションの背後にある歴史的コンテキストを理解し、その発展プロセスを経時的に追求する「経営史研究」・「技術史研究」、知的財産権などの法制度や会計制度などがイノベーションに与える影響を明らかにする「イノベーション制度研究」、実証研究を大きな理論的な視座から統一的に理解しようと試みる「知識経営研究」、そして、国際的な比較実証分析を行う領域として「国際比較研究」があります。

IIRでの研究が、日本の企業組織や市場、さらに政治や経済の大きな枠組みを創造的に破壊して新しい発展段階へと導く上での重要な契機となるものとわたしたちは信じています。イノベーションの社会的プロセスの研究拠点になる一日本社会が、そして国際社会がイノベーションを進める上で必要とされる能力の、その強化と向上に貢献することを社会的使命として、国の内外を問わず、大学、企業、官界から広く人々が集まって共同で研究することができるような拠点づくりを目指していきます。

沿革

1944年	11 月	産業経営の理論的・実証的研究を行う学内の機関として 発足した
1945年	5 月	名称を東京商科大学産業能率研究所とした
1949年	5 月	一橋大学産業経営研究所に改称した
1953年	6 月	機関誌『ビジネス レビュー』発刊
1957年	4 月	一橋大学商学部附属産業経営研究施設として官制化された
1997年	4 月	一橋大学イノベーション研究センターとして学内共同教育 研究施設に改組されて発足した
2000年	9 月	機関誌『一橋ビジネスレビュー』新創刊
2012年	4 月	商学研究科の附属研究施設となった



I. 研究活動



R



Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

1) イノベーション研究フォーラム ― 2025年度

イノベーション研究センターでは、イノベーション研究に関する研究会を、他大学の研究者、企業人、官界人らを交えて、月1回程度のペースで行っている。

<https://www.iir.hit-u.ac.jp/blog/2025/05/22/forum-2025/>

国内の研究者にとどまらず、海外の研究者の研究発表を積極的に主催することにより、国際的な研究交流を活発に行い、研究水準のさらなる向上に努めている。

4月9日	David A. Kirsch “Unlocking Generality: Resurfacing Uncertainty across Applications of the Lithium-ion Battery” (Associate Professor at the Robert H. Smith School of Business and the College of Information Studies at the University of Maryland)
6月30日	Cole Evan Short “Rare Diseases, Real Options: Unlocking Strategic Value in Pharmaceutical Innovation” (Assistant Professor, Pepperdine University / Visiting Associate Professor, IIR) Yuheng Ding “Mega Firms and Recent Trends in the U.S. Innovation: Empirical Evidence from the U.S. Patent Data” (Economist, World Bank)
10月15日	Cornelia Storz “Business Scholars on Boards and Firm Innovation” (Professor, Goethe University, Frankfurt)
10月27日	Mauricio Latapí “Shaping Sustainable Futures: Innovation in Reporting and Zero-Emission Pathways for the Shipping and Energy Sectors” (Assistant Professor, Mount Royal University, Canada)
11月26日	Victor Gilsing “The Innovation Puzzle : Banish the Innovation Killers and Become an Emerging Champion” (Professor, School of Business and Economics, the Vrije Universiteit Amsterdam)
1月20日	Charlotte Cloutier “Designing Research for Fit: Research Design Considerations for Qualitative Researchers” (Professor, Département de Management, HCE Montreal)
2月4日	Jiman Lee “Inter-generational Transfer of Knowledge and Skill in Family Business in Korea: A Case Study of ‘MinSokJu Andong Soju’” (Professor, Yonsei University, School of Business / Visiting Researcher, IIR)
3月30日	Israr Qureshi “Technoficing: From Idea to Measurement and Beyond” (Professor of Digital Development and Social Entrepreneurship, Queen’s Business School, Queen’s University Belfast)

イノベーション研究センターでは、イノベーション研究フォーラムに加え、ブラウンバッグランチセミナーを不定期に開催している。

<https://www.iir.hit-u.ac.jp/blog/2026/03/24/brownbag-2025/>

発表者については学内、学外、院生、教員を問わず、テーマはイノベーションに限定せずに、比較的アリーステージの研究の発表の場を提供し、活発な交流を行っている。

3月27日 Ricardo Azambuja
“How to Publish Qualitative Data in FT-listed Journals”
(Associate Professor, EDHEC Business School, France)

3) 国際シンポジウム等

「IIR Innovation Research Workshop 2025」

Date: August 28-29, 2025

Venue: Mercury Tower 7F, Hitotsubashi University and Zoom Online

Organized by: IIR, Hitotsubashi University

【August 28】

Language: English

Welcoming Message:

10:00-10:10: Masaru KARUBE

Session: Entrepreneurship (Chair: Hideto KOIZUMI)

10:10-10:40: Zhongyuan SUN

“Align or Misalign? A Role Perspective on Entrepreneurial Rhetoric”

10:40-11:10: Kevin TSENG

“Learning via the Band of Brothers: Evidence from Entrepreneurial Spillover”

11:10-11:40: Jung-yun HAN

“Peer Power Play: Exploring the Role of Venture and Founding Team Similarity in Accelerator Cohorts”

Session: Science of Science (Chair: Tohru YOSHIOKA-KOBAYASHI)

13:00-13:30: Ohchan KWON

“Addressing Funding Gap in the Commercialization of Academic Science: Evidence from MIT”

13:30-14:00: Hyo KANG

“Cross-border Visits and Scientific Collaboration”

14:00-14:30: Ryoji MATSUSHITA

“The Role of Science and Technology in 1980s Security policy: Insights from Key Government Agencies”

Session: Firm Innovation (Chair: Ivar PADRÓN-HERNÁNDEZ)

14:45-15:15: Antonio K W LAU

“Configuring User-oriented Environmental Innovation: A Fuzzy-set QCA of Firm Innovation Activities and Innovation Policies in Korea”

15:15-15:45: Sarah Lai-Yin CHEAH

“Open Innovation in Industrialized Asian Economies”

15:45-16:15: Seungryul Ryan SHIN

“Capital Gains Tax and Firm Innovation”

Session: Invited Session: (Chair: Yaichi AOSHIMA)

16:30-17:50: Kenneth HUANG

“Managing Technological Innovations and Disruptions across Institutions and under Uncertainty”

【August 29】

Language: English

Session: Strategy (Chair: Kazuhiro TAKAHASHI)

10:00-10:30: Yuki MIYAZAWA

“When Technology Finds Its Voice: How the Singing Voice Synthesis Technology
Category Emerged through Technology Redefinition”

10:30-11:00: Amit SHARMA

“The Essence of Craft: Exploring Craft Configurations through Category Centrality Lens”

Session: Strategy (Chair: Jiarong LI)

11:05-11:35: Min Jung KIM

“Cluster Dynamics, Employee Mobility, and Novelty of Firms’ Technological Innovation”

11:35-12:05: Kazuki YOKOTA

“From Projects to Capabilities: Role Sequencing and the Formation of Generalists and
Specialists in Creative Organizations”

Session: Intellectual Property (Chair: Byeongwoo KANG)

13:00-13:30: Guangwei LI

“Can Better IP Protection Ignite High-tech Startups? Evidence from China”

13:30-14:00: Ziming WANG

“Unlocking Startup Finance? The Role of Patent Pledges in Mobilising Venture Capital in
China”

14:00-14:30: Kosuke SUZUKI

“Analysis of the Relationship between Trademark Rights and Firm Value”

Closing Message:

14:45-15:00: Kentaro NAKAJIMA



II. 研究員

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

IR



青島 矢一

■ 履歴

- 1987年 一橋大学商学部卒業
- 1989年 一橋大学大学院商学研究科修士課程修了
- 1989年 一橋大学大学院商学研究科博士課程入学
- 1991年 マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院博士課程入学
- 1996年 Ph.D. (経営学) マサチューセッツ工科大学スローン経営大学院
- 1996年 一橋大学産業経営研究所専任講師
- 1997年 一橋大学イノベーション研究センター専任講師
- 1999年 一橋大学イノベーション研究センター助教授
- 2007年 一橋大学イノベーション研究センター准教授
- 2012年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授
- 2018年 一橋大学イノベーション研究センター長 (～2024年3月)
- 2023年9月 組織学会 会長 (～2025年8月)

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

阿部亮平・矢野孝彦・若井理恵子・青島矢一「ビジネス・ケース ワークマン：客層拡大に向けた自走型組織への変革」『一橋ビジネスレビュー』72巻4号, 2025年4月, 124-136頁

桐山智光・腰原茂弘・佐藤和・二木康裕・西阪卓・坂東淳子・山下慶子・青島矢一「ビジネス・ケース コプレック：『工場を、誇ろう。』プロジェクトによる製造業のリブランディング」『一橋ビジネスレビュー』73巻3号, 2025年12月, 134-147頁

Takada, Naoki, Yaichi Aoshima, Kazunari Matsushima and Akira Izumi, “Assessing International Knowledge Spillovers from Government Funded R&D: Evidence from Japanese National Projects,” *International Journal of Technology Management*, Vol. 99, Published Online: February 25, 2026, pp. 127-146, refereed

青島矢一「ビジネス・ケース HENNGE：多様性を組織の力にする経営」『一橋ビジネスレビュー』73巻4号, 2026年3月, 130-145頁

1.2. その他

青島矢一「イノベーション実現の条件（中）：探索投資、支える体制を」『日本経済新聞』2026年1月15日, 朝刊, 経済教室欄, 29面

2. コンファレンス、学会発表

青島矢一「真っ当な経営とイノベーション：日本経済成長の戦略」（公社）化学工学会 産学連携センター 経営システム研究委員会 シンポジウム」2026年3月18日, 京都大学, 招待有り



江藤 学

■ 履歴

- 1983年 大阪大学基礎工学部卒業
- 1985年 大阪大学大学院基礎工学研究科博士前期課程修了
- 1985年 通商産業省入省
- 1989年 科学技術庁科学技術政策局（～1990年）
- 1994年 米国ニューメキシコ大学客員研究員
- 1995年 筑波大学社会科学系講師（～1997年）
- 2000年 外務省経済協力開発機構日本政府代表部（在パリ）
- 2004年 （独）産業技術総合研究所
- 2006年 経済産業省産業技術環境局 認証課長
- 2006年～ 経済産業研究所 コンサルティングフェロー
- 2008年 博士号（工学） 東北大学
- 2008年 一橋大学イノベーション研究センター教授（～2011年3月）
- 2011年 日本貿易振興機構ジュネーブ事務所長（～2013年7月）
- 2013年 一橋大学イノベーション研究センター特任教授（～2016年）
- 2016年 一橋大学イノベーション研究センター教授（～2024年3月）
- 2024年～ 一橋大学イノベーション研究センター特任教授（～2026年3月）

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 著書

江藤学（編著）『標準化総論：ビジネス戦略に活かす基礎知識』（一財）日本規格協会，2026年4月，304頁

江藤学（編著）『新・標準化戦略：ルール作りで「市場」を創る』（一財）日本規格協会，2026年4月，304頁

1.2. その他

江藤学「ビジネスにおける標準化の活用 (7) - (11)」（一財）日本品質保証機構 HP 特設サイト『事業基盤の強化を考える情報サイト』隔月連載，2025年4月～10月

2. コンファレンス，学会発表

江藤学「国際標準の価値変化と新時代への対応」第13回 STI 政策シンポジウム，2025年11月18日，アクア博多，招待有り

江藤学「オープン・クローズ戦略の基本的考え方」東北大学オープン＆クローズ戦略第二回国際ワークショップ，2026年1月15日，日本橋ホール，招待有り

江藤学「技術の普及における世界標準の重要性」腐食防食学会 第202回腐食防食シンポジウム，2026年2月10日，東京理科大学森戸記念館，招待有り



軽部 大

■ 履歴

- 1993年 一橋大学商学部卒業
- 1995年 一橋大学大学院商学研究科修士課程修了 修士（商学）
- 1998年 一橋大学大学院商学研究科博士課程修了 博士（商学）
- 1998年 東京経済大学経営学部専任講師
- 2002年 一橋大学イノベーション研究センター助教授
- 2006年 フルブライト客員研究員（プリンマーカレッジ，ペンシルベニア大学ウォートンスクール，2007年12月まで）
- 2007年 一橋大学イノベーション研究センター准教授
- 2017年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授
- 2023年～ 京都大学大学院経営管理研究部グリーンアントレプレナーシップ研究寄附講座客員教授
- 2024年～ 一橋大学イノベーション研究センター センター長

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 著書

軽部大・古瀬公博・内田大輔『はじめよう！経営学入門』有斐閣，2025年，352頁

1.2. 論文，本の1章

軽部大・内田大輔・藤田康男「メンタル不調からワークとライフの関係を再考する」『一橋ビジネスレビュー』73巻2号，2025年9月，6-19頁

軽部大・宮澤優輝・藤田源太郎「ビジネス・ケース あいや：茶業界をグローバルな視点で革新する」『一橋ビジネスレビュー』73巻2号，2025年9月，136-154頁

軽部大・内田大輔・山田仁一郎「ビジネス・ケース ヘラルボニー：違いを価値に」『一橋ビジネスレビュー』73巻3号，2025年12月，118-133頁

橘樹・軽部大・内田大輔「IPO 後における TMT 成員の退出と企業成長：能力・動機・機会の調整効果」『Venture Review= 日本ベンチャー学会誌』47巻，2026年3月，27-38頁，査読有り

于雷・軽部大・内田大輔「中国上場企業のもう一つの『顔』：中国深・創業板上場企業の属性と経営チームの特徴に関する実態調査（2009年～2022年）」『Venture Review= 日本ベンチャー学会誌』47巻，2026年3月，39-44頁，査読有り

橘樹・軽部大・内田大輔「IPO 後における創業者の退出の決定要因：日本の新規上場企業を対象とした実証分析」『日本経営学会誌』，近刊，査読有り

2. コンファレンス，学会発表

Karube, Masaru, Yasushi Hara, Yuki Miyazawa, Yu Lei and Riho Tanaka, “Unpacking Social Impact: Quantifying Scholarly and Social Activities in Humanities and Social Sciences in Japan,” The 10th Atlanta Conference on Science and Innovation Policy, May 15, 2025, the Georgia Institute of Technology, Atlanta, USA, refereed

- Karube, Masaru, Yasushi Hara, Yuki Miyazawa, Yu Lei and Riho Tanaka, “Quantifying Scholarly Activities, Research Output and Social Impact in Humanities and Social Sciences of Japan: A mixed methods study,” RESSH2025 (Research Evaluation in Social Sciences and Humanities) Conference of the International Association ENRESSH (European Network for Research Evaluation in the Social Science and Humanities), May 21, 2025, Helsinki, Finland, refereed
- Karube, Masaru, Avimanyu Datta, Yuki Miyazawa and Gentaro Fujita, “Reconfiguring Authenticity: An In-depth Study of the Evolution of Matcha Tea,” AMJ Paper & Idea Development Workshop, June 23, 2025
- Karube, Masaru, Avimanyu Datta and Yuki Miyazawa, “Reconfiguring Authenticity: An In-depth Study of Matcha Tea,” 85th Annual Meeting of the Academy of Management, July 25-29, 2025, Bella Center Copenhagen, Copenhagen, Denmark, refereed
- Karube, Masaru, Avimanyu Datta and Yuki Miyazawa, “Reconfiguring Authenticity: An In-Depth Study of the Evolution of Matcha Tea,” Academy of Management 85th annual meeting, July 29, 2025, Copenhagen, Denmark, refereed
- Karube, Masaru, Yasushi Hara, Lei Yu and Yuki Miyazawa, “Stability and Change: Disciplinary Heterogeneity and Regional Dynamics in the Research Evaluation of the Humanities and Social Sciences in Japan,” RESSH 2026 Conference, April 23, 2026, University of Florence, Italy, refereed
- Karube, Masaru, Yuki Miyazawa and Avimanyu Datta, “Long Game: Patience, Agility and the Temporal Constitution of Organizational Action,” Strategy and Organization Science Theory Development Workshop (SOS-TDW), May 20-21, 2026, EM Lyon, Lyon, France, invited
- Karube, Masaru, Yasuo Fujita and Daisuke Uchida, “Beyond Boundaries: Dynamic Work–Life Interactions and Mental Health Support in Modern Japan,” 2026 ASAC (Administrative Sciences Association of Canada) Conference, May 24, 2026, Calgary, Alberta, Canada, refereed
- Miyawaki, Ryoji, Yuki Miyazawa, Masaru Karube and Jin-Ichiro Yamada, “The Power of Negative Materiality: How Market Absence Sustains Regenerative Organizing,” 2026 Academy of Management Annual Meeting, July 31-August 4, 2026, Philadelphia, PA, USA, refereed
- Miyazawa, Yuki, Masaru Karube and Avimanyu Datta, “Becoming Lead Users: Emergence of a Collective Technological Frame through Manifestations,” 2026 Academy of Management Annual Meeting, July 31-August 4, 2026, Philadelphia, PA, USA, refereed



カン ビョンウ

■ 履歴

- 2006年 東北大学工学部卒業
- 2008年 東北大学大学院工学研究科博士前期課程修了
- 2008年 LG Electronics 研究員（～2011年）
- 2014年 東京大学大学院 Ph.D.（技術経営戦略学）
- 2014年 アジア経済研究所研究員（～2016年）
- 2016年 一橋大学イノベーション研究センター専任講師
- 2019年 一橋大学イノベーション研究センター准教授
- 2025年4月～ 一橋大学イノベーション研究センター教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

Maliphol, Sira, Wonsub Eum and Byeongwoo Kang, “Comparison of AI Transformation Policy Directionality in Korea and Japan,” *Korean Management Review*, Vol. 54, No. 6, December 2025, pp.1989-2016, refereed

2. コンファレンス, 学会発表

Hyun, Eunjung, Tae-Seok Kim and Byeongwoo Kang, “Cross-Industry Talent Mobility and Trajectory-Shaping Innovation in the Automotive Technological Transition,” R&D Management Workshop 2026, May 29-30, 2026, Korea University, Seoul, Korea

3. 受賞

「R&D Management Workshop 2026 Best Paper Award」を受賞

（受賞者：Hyun, Eunjung, Tae-Seok Kim and Byeongwoo Kang, 研究成果：「Cross-Industry Talent Mobility and Trajectory-Shaping Innovation in the Automotive Technological Transition」, R&D Management Workshop 2026, 2026年5月29日, Korea University, Seoul)



小泉 秀人

■ 履歴

- 2011年 アメリカ創価大学教養学部卒業
- 2012年 エール大学経済学部修士課程修了 修士（国際開発経済学）
- 2012年 イノベーション・フォー・パバティアクション 研究員（～2013年）
- 2013年 世界銀行短期コンサルタント（～2014年）
- 2020年 ペンシルベニア大学ウォートン校応用学部博士後期課程修了
Ph. D.（応用経済学）
- 2020年 一橋大学イノベーション研究センター 特任助教
- 2021-2024年 一橋大学イノベーション研究センター 特任講師
- 2023-2025年 （独）経済産業研究所 研究員（政策エコノミスト）
- 2025年～ 一橋大学イノベーション研究センター 専任講師

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. その他

小泉秀人,「[連載] 小泉秀人の時事ネタ経済学 (1)-(18)」, 継続中, JBpress, 2025年4月～

<https://jbpress.ismedia.jp/search/author/%E5%B0%8F%E6%B3%89%20%E7%A7%80%E4%BA%BA>



中島 賢太郎

■ 履歴

- 2003年 東京大学経済学部卒業
- 2008年 東京大学大学院経済学研究科博士課程修了 博士（経済学）
- 2008年 東北大学大学院経済学研究科
地域経済金融論寄附講座（七十七）准教授
- 2010年 一橋大学経済研究所経済制度研究センター准教授
- 2011年 東北大学大学院経済学研究科准教授
- 2017年 一橋大学イノベーション研究センター准教授
- 2023年～ 一橋大学イノベーション研究センター教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 著書

中島賢太郎・手島健介・山崎潤一『歩いて学ぶ都市経済学』日本評論社，2025年，248頁

1.2. 論文，本の1章

Saito, Yukiko, Kentaro Nakajima, Tetsuji Okazaki and Hiroyasu Inoue, “The Role of Human Interaction in Innovation: Evidence from the 1918 Influenza Pandemic in Japan,” *Japanese Economic Review*, Vol. 76, No. 3, October 2025, pp. 795-820, refereed

Miyauchi, Yuhei, Kentaro Nakajima and Stephen J Redding, “The Economics of Spatial Mobility: Theory and Evidence Using Smartphone Data,” *The Quarterly Journal of Economics*, Vol. 140, No. 4, November 2025, pp. 2507-2570, refereed

黒石悠介・中島賢太郎・高安優太郎・田中万理「GVC とレジリエンス」『フィナンシャル・レビュー』（財務総合政策研究所），通巻第162号，2026年3月，149-181頁

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー

Kotani, Atsuki, Kentaro Nakajima, Tetsuji Okazaki and Yukiko U. Saito, “The Impact of Military Technology Development on Innovation: Evidence from Prewar and Wartime Japanese Secret Patents,” RIETI Discussion Paper Series 25-E-093, September 2025

3. コンファレンス，学会発表

Nakajima, Kentaro, “Satellite-Based Vehicle Flow Data to Assess Local Economic Activities,” International SPACE Workshop, May 11, 2025, Shanghai Jiao Tong University, Shanghai, China, invited

Nakajima, Kentaro, “Satellite-Based Vehicle Flow Data to Assess Local Economic Activities,” Conference on Transition and Economic Development, May 13, 2025, Fudan University, Shanghai, China, invited

Nakajima, Kentaro, “Satellite-Based Vehicle Flow Data to Assess Local Economic Activities,” Economics Seminar, May 15, 2025, Shanghai University, China, invited

- Nakajima, Kentaro, “Workplace Communication and Productivity: Insights from Wearable Sensor Data and Leadership Training Program,” 名古屋市立大学火曜研究会，2025年5月23日・名古屋市立大学，名古屋，招待有り
- Nakajima, Kentaro, “Workplace Communication and Productivity: Insights from Wearable Sensor Data and Leadership Training Program,” Sixth World Labor Conference of SOLE, June 28, 2025, Westin Harbour Castle, Toronto, Canada, invited
- Nakajima, Kentaro, “Workplace Communication and Productivity: Insights from Wearable Sensor Data and Leadership Training Program,” 応用地域学会年次大会，2025年11月28日，富山大学，富山，招待有り
- Nakajima, Kentaro, “Economies of Density in Public Service Provision: Evidence from the Time Allocation of Garbage Collection Trucks,” 関西公共経済学研究会，2026年4月25日，関西大学，大阪，招待有り
- Nakajima, Kentaro, “Identifying Neighborhood Effects among Firms: Evidence from the Location Lotteries of the Tokyo Tsukiji Fish Market,” NBER East Asian Seminar on Economics, June 7-8, 2026, Tsinghua University, Beijing, China, invited
- Nakajima, Kentaro, “Economies of Density in Public Service Provision: Evidence from the Time Allocation of Garbage Collection Trucks,” The Osaka Workshop on Economics of Institutions and Organizations, June 19, 2026, 大阪大学（オンライン），招待有り
- Nakajima, Kentaro, “Identifying Neighborhood Effects among Firms: Evidence from the Location Lotteries of the Tokyo Tsukiji Fish Market,” Economics Seminar, June 26, 2026, Peking University, China, invited



パドロン＝エルナンデス イバ

■ 履歴

- 2010年 ヨーテボリ大学商・経済・法学部 国際ビジネス専攻 卒業 (B. Sc. 取得)
- 2011年 日欧産業協力センター研修員 (～2011年9月)
- 2012年 ヨーテボリ大学大学院経営管理研究科 国際ビジネス・貿易専攻 卒業 (M. Sc. 取得)
- 2017年 スtockホルム商科大学 欧州日本研究所 連携研究員 (～2023年7月)
- 2018年 日本学術振興会 外国人特別研究員 (欧米短期) (～2019年1月)
- 2018年 スtockホルム商科大学 欧州日本研究所 日本事務所所長 (～2023年12月)
- 2019年 スtockホルム商科大学大学院マーケティング・戦略研究科
Ph. D. (国際ビジネス)
- 2020年～ 一橋大学イノベーション研究センター 専任講師

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の1章

Padrón-Hernández, Ivar and Kristina Kazuhara, “På genopdagelse i fortidens boligarkitektur”

Oplev Japan (Skovsted Hansen, Annette, Borup, Jørn, Univers), 2025

<https://forlagetunivers.dk/book.php?&id=68>

Padrón-Hernández, Ivar and Edward Gillmore, “How Subsidiaries Leverage Institutionally Derived Influence in Headquarter Strategy Initiatives,” *Journal of International Management*, Volume 32, Issue 2, March 2026, refereed

<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S1075425326000189>

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー, 学会・コンファレンスペーパー

Padrón-Hernández, Ivar and Yoshikatsu Shinozawa, “Beyond profit: Examining the Impact of Product Margin and Firm Size on Green Burger Offerings in Sweden,” Global Hospitality and Tourism Research Summit, May 2025

Short, Cole and Ivar Padrón-Hernández, “Orphaned by Scale: How Strategic Attention and Collaboration Impact Rare Disease Innovation,” Academy of Management Journal Paper Development Workshop, June 2025

Padrón-Hernández, Ivar, “Differentiated Co-evolution of MNE Strategy and Host Country Institutions: A Three-country Study,” Annual Meeting of the Academy of Management, July 2025

Short, Cole and Ivar Padrón-Hernández, “How Firm Attention Shapes Pharmaceutical Innovation,” Annual Conference of the Academic Association for Organizational Science, September 2025

Padrón-Hernández, Ivar and Mariko Nakagawa, “Exploratory Moves in Asymmetric Global Competition,” Annual Conference of the EuroMed, Academy of Business, September 2025

3. コンファレンス、学会発表

Padrón-Hernández, Ivar and Yoshikatsu Shinozawa, “Commitment Pays Off: Profitability of Vegetarian Fast Food Hamburgers,” Research Colloquium, Rosen College of Hospitality Management, University of Central Florida, August 15, 2025, online, invited



吉岡（小林） 徹

■ 履歴

- 2005年 大阪大学法学部法学科卒業
- 2007年 大阪大学大学院法学研究科 法学・政治学専攻 博士前期課程修了
修士（法学・政治学）
- 2007年 株式会社三菱総合研究所研究員（～2012年）
- 2009年 東京大学政策ビジョン研究センター特任研究員（非常勤，～2012年）
- 2013年 東京大学政策ビジョン研究センター研究補佐員（非常勤，～2014年）
- 2014年 日本学術振興会特別研究員（DC2）
- 2015年 東京大学大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻 博士課程修了
博士（工学）
- 2015年 一橋大学イノベーション研究センター特任講師（非常勤，～2016年）
- 2015年 東京大学公共政策大学院特任講師（非常勤，～2016年）
- 2016年 東京大学大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻特任助教（～2019年）
- 2017年 一橋大学イノベーション研究センター特任講師（非常勤，～2019年）
- 2019年 一橋大学イノベーション研究センター専任講師
- 2024年～ 一橋大学イノベーション研究センター准教授

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文、本の1章

吉田公亮・吉岡（小林）徹・牧兼充「革新的技術の創出を促進する研究開発拠点の新設に関する考察」『研究 技術 計画』40巻2号，2025年9月，228-242頁，査読有り

田原敬一郎・吉岡（小林）徹・山野宏太郎・高橋真木子「科学技術基本計画はどう変化してきたか：システム理論からの分析」『研究 技術 計画』40巻3・4号，2025年12月，285-304頁

吉岡（小林）徹・小澤雄太郎・杉崎弘「誰が技術と社会の関係性のビジョンの具体化を行うのか：Industrie 4.0からの示唆」『研究 技術 計画』40巻3・4号，2025年12月，396-412頁

吉岡（小林）徹・平井祐理「ビジネス実験ができる企業の基盤：ビッグデータの利活用をめぐる組織能力研究からの示唆」『一橋ビジネスレビュー』73巻4号，2026年3月，20-32頁

Kitahara, Yuki, Hiroaki Koda, Junya Kataoka, Kumiko Tatsumi, Ryo Nishino, Tohru Yoshioka-Kobayashi and Sumimasa Nagai, “Advancement in Cell and Gene Therapy Research: A 35-Year Bibliometric Perspective,” *Cytotherapy*, Vol. 28, Issue 4, April 2026, refereed
<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S1465324926000125?via%3Dihub>

1.2. その他（一般雑誌，新聞記事等）

吉岡（小林） 徹「クラウドファンディングを通じた科学研究支援の動機：研究者への示唆」『日本ロボット学会誌』43巻4号，2025年5月，355-358頁

吉岡（小林） 徹・片岡純也・横田一貴・柴山創太郎・川村真理「何が博士人材を輝かせるのか？：生き生きと活躍する環境を作り出すためのエビデンス」『STI Horizon』（科学技術・学術政策研究所），11巻2号，2025年6月，26-31頁

2. 未出版物

2.1. ワーキングペーパー

吉岡（小林） 徹・枝村一磨・古澤陽子・高橋真木子・渡邊万記子・隅蔵康一「大学等の研究者の研究時間の推移：大学等所属者の職務等属性の多様性を加味した FTE 調査データの再集計」『研究・イノベーション学会 年次学術大会講演要旨集』40巻，2025年11月

吉岡（小林） 徹・片岡純也・横田一貴・柴山創太郎・川村真理「博士人材のトランスファラブル・スキルと就職後の職務満足・異動」NISTEP Discussion Paper No. 246，科学技術・学術政策研究所，2026年3月

2.2. 調査研究報告書

吉岡（小林） 徹「解説 閉じた科学に日本はどう向き合うべきなのか？：経営戦略論からの整理」『国際共同研究と経済安全保障：閉じた科学の台頭にどう向き合うか 科学技術に関する調査プロジェクト報告書』，調査資料2025-4，国立国会図書館 調査及び立法考査局，2026年2月，所収，83-97頁

3. コンファレンス，学会発表

Yoshioka-Kobayashi, Tohru, “Why Does Knowledge Concentrate in Certain Regions? Perspectives from the Innovation Management Study,” The 28th IPSA World Congress of Political Science, International Political Science Association (IPSA), Jul 13, 2025, The Coex Convention Center in Seoul, South Korea, Invited

Yoshioka-Kobayashi, Tohru, “Yesterday Once More: Japan’s Semiconductor Policy Now & Then,” Semiconductor Power Play: Geopolitical Circuitry of Global Trade and Energy, September 7, 2025, Taipei School of Economics and Political Science, Hsinchu, Taiwan, Invited

吉岡（小林） 徹・秋池篤・勝又壮太郎，“A Technological Turbulence in a Product Category and a Borrowing of Style from Other Product Categories: An Explorative Study of the U.S. Design Patent,” JPIM Research Forum 2025, organized by the Product Development and Management Association (PDMA), September 13, 2025, Chicago, USA, Peer-reviewed

Yamamoto, Tsunehisa, Tohru Yoshioka-Kobayashi and Masao Hirano, “The Impact on CEO Intrapersonal Diversity on Corporate Value: An Empirical Analysis Based on Data from Multinational Companies and CEO Interviews,” Annual Meeting of the Academic Association for Organizational Science 2026, September 20, 2025, Aoyama Gakuin University, Tokyo, Peer-reviewed

Yoshioka-Kobayashi, Tohru, Chihiro Takayama and Kanetaka Maki, “Designers Uncredited: Designers’ Names Crediting in Design Awards and Product Design Innovation Performance,” Asia Pacific Innovation Conference 2025, October 10, 2025, Foreign Trade University, Hanoi, Vietnam, Peer-reviewed

Yoshioka-Kobayashi, Tohru, Shunsuke Kyo, Heyonchol Shin, Sungbin Ha and Takahiro Kojima, “Procedural Legitimacy, Path Dependency, and Unintended Consequences of Innovation Policy-Making: Behind-the-scenes Story of Japan’s AI-friendly Copyright Reform,” Asia Pacific Innovation Conference 2025, October 11, 2025, Foreign Trade University, Hanoi, Vietnam, Peer-reviewed

吉岡（小林）徹・枝村一磨・古澤陽子・高橋真木子・渡邊万記子・隅蔵康一「大学等の研究者の研究時間の推移：大学等所属者の職務等属性の多様性を加味した FTE 調査データの再集計」研究・イノベーション学会 第40回年次学術大会，2025年11月8日・9日，オンライン

吉岡（小林）徹・片岡純也・横田一貴・柴山創太郎・川村真理「若手研究者の博士課程修了直後の職務環境の推移」研究・イノベーション学会 第40回年次学術大会，2025年11月8日・9日，オンライン

青木智乃紳・吉岡（小林）徹「連合学習の技術的特性によるデジタルプラットフォーム形成可能性に関するマルチエージェント・シミュレーション分析」情報処理学会第88回全国大会，2026年3月7日，松山大学，愛媛県

吉岡（小林）徹「どのような博士人材が産業界を目指すのか」NISTEP 国際共同セミナー「博士人材のキャリアデザイン～キャリアパス形成に向けた取組と課題」，2026年3月23日，オンライン，招待有り

4. 受賞

Product Development and Management Association より「2025 JPIM Research Forum Best Paper Award」を受賞

（受賞者：吉岡（小林）徹・秋池篤・勝又壮太郎，研究成果：「A Technological Turbulence in a Product Category and a Borrowing of Style from Other Product Categories: An Explorative Study of the U.S. Design Patents」，2025 JPIM Research Forum，2025年9月13日）

**李佳蓉 (リ カヨウ)**

■ 履歴

2017年 对外経済貿易大学商学部卒業
2021年 一橋大学大学院経営管理研究科 修士課程修了
2024年 一橋大学大学院経営管理研究科 博士後期課程修了
2024年～一橋大学イノベーション研究センター 特任講師
2026年～一橋大学イノベーション研究センター 客員研究員
2026年～横浜国立大学 国際社会科学研究院 専任講師

■ 研究業績

1. 出版物

1.1. 論文, 本の一章

Li, J. (2025). Sculpted Systems, Woven Ties: Driving Forces Behind Stakeholder Engagement in State-Owned Enterprise. In Academy of Management Proceedings (Vol. 2025, No. 1, p. 23340). Valhalla, NY 10595: Academy of Management.

2. コンファレンス, 学会発表

Li, Jiarong. Reviving the Spirit of Community in a Market Society: Narratives in Japanese Enterprises' CSR Community, Symposium, Annual Meeting of the Academy of Management, 2025.

Li, Jiarong., Reinventing the State's Machinery: Tracing the Evolution and Future Agenda of CSR Research on Chinese State-Owned Enterprises, Annual Meeting of the Society for Business Ethics, 2025

3) 兼任研究員 ―― 2025年度

■ 生貝 直人

一橋大学大学院法学研究科 教授

■ 植杉 威一郎

一橋大学経済研究所 教授

■ 大山 陸

一橋大学大学院経済学研究科 教授

■ 西野 史子

一橋大学大学院社会学研究科 教授

■ 福川 裕徳

一橋大学大学院経営管理研究科 教授

4) 外国人研究員 (客員) ―― 2025年度

■ コール エヴァン・ショート Cole Evan SHORT

研究テーマ「Strategic Factors That Inform Innovation, Such As How Organizations Seize Emerging Market Opportunities or Navigate AI's Impacts」

2025年4月4日 ～ 2025年7月9日



III. 教育活動



R



Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

1) 講義 ― 2025年度

IIR 教員による講義の概要は以下の通りである。

■ 大学院経営管理研究科の講義

1. 研究者養成コース

「イノベーション経営特論」秋冬学期2単位

軽部大

イノベーション研究と戦略論・組織論が交差する研究領域を念頭に置いて、基本的な古典から近年の英文アカデミック・ジャーナルの研究業績を可能な限り幅広く検討し、近年の研究動向に関する自分なりの鳥瞰図が作れるよう各トピックを構成する予定である。各自が進めている研究課題とジャーナルの世界における主流の研究動向との関連性や結節点を見いだす、あるいは将来的な研究課題を探索する研究戦略を検討する機会を提供したい。

「イノベーション経済特論」春夏学期2単位

中島賢太郎

イノベーションについて経済学的観点からの理解を行うことを目的とする。近年のイノベーションに関する統計的実証研究の紹介を行うことで、本分野についての最新の研究動向について理解を深める。

「知的財産特論」春夏学期2単位

江藤学

特許法、実用新案法、意匠法、商標法、著作権等の知的財産権法や不正競争防止法の制度や運用、さらに技術に関する国際標準化や認証（適合性評価）の仕組みや実態、標準必須特許について基礎的な素養を得る。経済産業省行政官の業務経験を生かした講義に加えて、特許データベースの活用や、知的財産に関する最新の学術研究についても紹介する。

「先端科学技術とイノベーション」秋冬学期2単位

青島矢一、江藤学

経済社会への影響を考慮せずに現実性のある研究を行うことは難しくなっている。政策立案に関係する研究であれば、それはなおさらのことである。社会学者であっても現実社会に有益な知見をもたらす研究を行うためには、自然科学の発展を深く理解することが必要である。そこで本授業では、社会に大きな影響を与えてきた、また、与えつつある先端科学技術の重要領域を4つから5つとりあげて、最先端のイノベーションの事例を紹介するとともに、その社会科学的な意義を議論する。

「イノベーションと政策・制度」秋冬学期2単位

江藤学

政策や制度がイノベーションに与える影響を知り、イノベーションを起こすツールとして政策や制度を使いこなしたり、新しい政策や制度を立案したりする能力を獲得し、イノベーション研究者・実務者としての基礎的素養とする。政策や制度がどのように作成され、施行され、社会を変革しているかを予測するための基礎的知識と思考能力を獲得する。

「イノベーションと経営・経済・政策」春夏学期2単位

青島矢一、軽部大、江藤学、中島賢太郎

科学技術イノベーション・システム（科学技術及びイノベーションのプロセス、メカニズム、効果等）を社会科学の側面から俯瞰的にとらえるための講義。イノベーション研究の全体像及び各論の基礎的な知識を身につける。

「イノベーション研究方法論」春夏学期2単位

青島矢一、カン・ビョンウ、吉岡（小林）徹

科学技術イノベーション・システムの社会科学的研究に必要とされる、定量的、定性的方法論を習得するための講義。イノベーションの研究方法論についての基礎的な概念、視点、理論などを身につけることを目的とする。

「特別講義 (イノベーションの国際比較 A)」 春夏学期 2 単位 Ivar Padrón-Hernández

Why do potentially revolutionary products and services fail to become successful? How do companies take care of (or not) innovations developed by firms that they buy? What happens when companies try to introduce radical innovations in new countries? These are some of the questions we will discuss at this course, which aims to provide a deep understanding of the different challenges that arise when a company has to convince a market to accept its innovations. This is even more important in foreign countries, where different sets of norms and unwritten rules may impact the success of innovations. Both through instructor-led lectures, case sessions and a joint project, we study the complex and often overlooked dynamics at the tail end of the innovation process that may make or break a product or service that is otherwise competitive.

「技術戦略特論」 秋冬学期 2 単位 青島矢一

技術的なイノベーションを中心とする、イノベーションに関わる社会現象を経営学の視点から研究するための基礎的な知識を学ぶ。本講義では、イノベーションの特質、イノベーションのパターン、イノベーションの創出、そして、イノベーションと競争との関係性を主たるテーマとする。イノベーションとはどのような特質をもった現象なのか、どのような発生、変化のパターンをたどるのか、企業の競争や産業の構造にどのような影響をおよぼすのか、などの問題を検討する。これらの問題を扱っている主として海外の文献を読み、イノベーション研究に関する既存の概念、視点、理論、方法を理解することを目標とする。

「アントレプレナーシップ特論」 春夏学期 2 単位 カン・ビョンウ

アントレプレナーシップ研究及びイノベーション研究関連の論文を精読する。それを踏まえ、これからどこに研究課題があるのかを考える。同テーマに関する議論の流れを把握と共に実証分析方法について学ぶことを目的とする。

「イノベーションリサーチセミナー I」 春夏学期 2 単位

青島矢一、江藤学、吉岡（小林）徹

「イノベーションリサーチセミナー II」 秋冬学期 2 単位

青島矢一、江藤学

「研究領域演習 (イノベーション)」 通年 6 単位

中島賢太郎、小泉秀人

「研究領域副演習 (イノベーション)」 通年 4 単位

中島賢太郎

「研究領域特論 (イノベーション)」 通年 2 単位

中島賢太郎、小泉秀人

「演習／演習 (Ph.D)」 通年 6 単位

青島矢一、江藤学、軽部大、カン・ビョンウ、中島賢太郎、
イバ＝パドロン・エルナンデス、吉岡（小林）徹

「副演習／副演習 (Ph.D)」 通年 4 単位

青島矢一、江藤学、軽部大、カン・ビョンウ、中島賢太郎、
イバ＝パドロン・エルナンデス、吉岡（小林）徹

2. MBA コース

「経営組織」経営分析プログラム 秋冬学期2単位

「経営組織」経営管理プログラム 秋冬学期2単位

青島矢一

企業は、変化の激しい外的環境に効果的かつ効率的に適応する組織的仕組みを構築すると同時に、内部の人々から組織目標達成に必要なエネルギーを引き出す必要がある。こうした外的環境への適応と内的人材への働きかけの微妙なバランスをはかることが、組織マネジメントにとって重要なことである。そのために必要となる、様々な組織の理論や経営技法を提供することがここでの目的である。個人の動機付けに関わるミクロの組織論から、組織の設計や環境・制度との関わりを扱うマクロの組織論にいたるまでをカバーしながら、組織を運営するマネジャーとして必要なスキルを学んでいく。

「ビジネス・エコノミクス」経営分析プログラム 秋冬学期2単位

小泉秀人

ミクロ経済学を用いて企業行動を学び、現実の経済や経営問題に応用できる力を養う。本講義を通じて経済学の知識を用い、グローバルな経済問題や企業の社会的責任に関する力を身につけることを目指す。

「Advanced Course in Management (MBA)」経営分析プログラム 春学期2単位

Ivar Padrón-Hernández

What do companies have to deal with when crossing national borders? In this course, we take a broad approach to studying and discussing different aspects, challenges and opportunities of international management. As globalization is expanding, all countries are host to foreign firms and not only large multinational companies take part in international management. Therefore, understanding the dynamics of international management is valuable not only for students who wish to work in an international setting, but for any student that wants to have a grasp of the modern business environment.

「ワークショップ：経営 A」経営分析プログラム 通年6単位

青島矢一

「ワークショップ A」経営管理プログラム 通年6単位

軽部大

3. 一橋大学知識共創機構

F2人材リーダー育成プログラム

カン・ビョンウ：第2クール「イノベーション・マネジメント」

■ 商学部の講義

- 「イノベーション・マネジメント」春学期 2 単位 吉岡（小林）徹
イノベーションは個人、組織、社会が絡み合う複雑な現象であり、未解明の法則も多々ある。そこで本授業では、イノベーションという現象を複数の焦点（個人、チーム、組織、地域、国）と学術的な視座（組織論、マーケティング論、戦略論、社会学、経済学）を切り替えて多角的に見ていくこと、そして、障壁の原因について自らで仮説を作り検証をしていくことを重視する。
これらの多角的な見方と仮説検証の力を身に付け、産業界や社会活動、行政、学術それぞれの世界で応用可能な次の能力を得ることを到達目標とする。
- 「イノベーション経済特論」春夏学期 2 単位 中島賢太郎
イノベーションについて経済学的観点からの理解を行うことを目的とする。近年のイノベーションに関する統計的実証研究の紹介を行うことで、本分野についての最新の研究動向について理解を深める。
- 「イノベーション経営特論」秋冬学期 2 単位 軽部大
イノベーション研究と戦略論・組織論が交差する研究領域を念頭に置いて、基本的な古典から近年の英文アカデミック・ジャーナルの研究業績を可能な限り幅広く検討し、近年の研究動向に関する自分なりの鳥瞰図が作れるよう各トピックを構成する予定である。各自が進めている研究課題とジャーナルの世界における主流の研究動向との関連性や結節点を見いだす、あるいは将来的な研究課題を探索する研究戦略を検討する機会を提供したい。
- 「ビジネス・エコノミクス基礎Ⅰ」春学期 2 単位 小泉秀人
ミクロ経済学の理論的枠組みを用いて、消費者や企業の様々な行動を理論的に考察する。企業行動に関する理論を主に学び、現実の話題・問題に経済理論を応用できる力を養うことが、本コースの主目的となっている。本コースのキーワードは、産業組織論、価格戦略、情報の非対称性となっている。
- 「ビジネス・エコノミクス基礎Ⅱ」秋学期 2 単位 中島賢太郎
統計的データ分析の理論、方法論の基礎についての講義および統計パッケージソフトによる実習を通じて、受講者が自分でビジネスエコノミクスに関する統計的データ分析が行えるようになることを目的とする。
- 「デザイン思考とデザイン経営」春夏学期 2 単位 吉岡（小林）徹 共同講義
「デザイン思考」と「デザイン経営」の「なぜ」を理解することに主眼を置き、その実践例や実践手法について考えていくための、理論的な手がかりと考える素材を提供する。
- 「特別講義（イノベーションの国際比較 A）」春夏学期 2 単位 Ivar Padrón-Hernández
Why do potentially revolutionary products and services fail to become successful? How do companies take care of (or not) innovations developed by firms that they buy? What happens when companies try to introduce radical innovations in new countries? These are some of the questions we will discuss at this course, which aims to provide a deep understanding of the different challenges that arise when a company has to convince a market to accept its innovations. This is even more important in foreign countries, where different sets of norms and unwritten rules may impact the success of innovations. Both through instructor-led lectures, case sessions and a joint project, we study the complex and often overlooked dynamics at the tail end of the innovation process that may make or break a product or service that is otherwise competitive.

「Interactive Course on Business Basics (Management)」 春学期 2 単位

Ivar Padrón-Hernández

Management is a broad topic that includes several different activities. In this course, we will cover what companies do, how they compete against each other, and the relationship between companies and the societies where they exist. The course focuses mostly on questions of strategy and organization, rather than issues or activities related to leadership, psychology, operations management, finance or accounting. Another characteristic of the course contents is that it often highlights things from an international perspective, considering the increasing role of globalization and students' future careers.

「Advanced Course in Management」 春学期 2 単位

Ivar Padrón-Hernández

What do companies have to deal with when crossing national borders? In this course, we take a broad approach to studying and discussing different aspects, challenges and opportunities of international management. As globalization is expanding, all countries are host to foreign firms and not only large multinational companies take part in international management. Therefore, understanding the dynamics of international management is valuable not only for students who wish to work in an international setting, but for any student that wants to have a grasp of the modern business environment.

「応用ミクロ経済分析」 冬学期2単位

中島賢太郎

本講義は、受講者が都市・地域・空間に関する事柄について、経済学の観点から理論的な理解を行えるようになること、及び、その理論的理解について実際のデータを用いて検証を行うことができるようになることを到達目標とする。また、日常の都市の風景から、その背後にある経済学的メカニズムを考察できるようになることを目的とする。

「前期ゼミナールⅠ」 春夏学期 2 単位

青島矢一、カン・ビョンウ

「前期ゼミナールⅡ」 秋冬学期 2 単位

カン・ビョンウ、小泉秀人

「導入ゼミナールⅠ」 春夏学期 2 単位

小泉秀人

「導入ゼミナールⅡ」 秋冬学期 2 単位

小泉秀人

「主ゼミナール (4年)」 通年 4 単位

軽部大、カン・ビョンウ、中島賢太郎

「主ゼミナール (3年)」 通年 4 単位

軽部大、カン・ビョンウ、中島賢太郎

「副ゼミナール (4年)」 通年 4 単位

軽部大、カン・ビョンウ、中島賢太郎

「副ゼミナール (3年)」 通年 4 単位

軽部大、カン・ビョンウ、中島賢太郎

「4年次ワークショップ」 春夏学期2単位

吉岡（小林）徹 共同講義

「3年次ワークショップⅠ」 春夏学期 2 単位

吉岡（小林）徹 共同講義

■ 概要

イノベーションマネジメント・政策プログラム（Innovation Management and Policy Program：IMPP）は、経営学や経済学を中心とする社会科学の知識を身につけながら、①イノベーションのマネジメント、または、イノベーションを促す政策形成や制度設計に関連するテーマで独自の研究論文を仕上げ、学術的なフロンティアを開拓するとともに、②民間組織におけるイノベーションのマネジメントや公的機関における科学技術イノベーション政策の形成に対して適切かつ重要な影響力をもちうる研究人材の養成のための教育を行うことを目的としたプログラムである。日本および国際社会がイノベーションを生み出す能力を強化もしくは向上させる上での学術的基盤を担う人材の育成を行う、教育（教員からの学術的知識の習得）と研究（教員との研究の実施）が一体化したプログラムとなっている。

本プログラムは、文部科学省「科学技術イノベーション政策における『政策のための科学』基盤的研究・人材育成拠点整備事業」による補助を受け運営している。

■ 受講者

本プログラムには、一橋大学大学院博士後期課程に所属する学生その他、社会人を含む修士課程修了者（もしくは、修士課程修了に相当する者）などが参加可能であり、カリキュラムは、水曜日の夜開講の必修科目と土曜日開講のイノベーションリサーチセミナー、平日開講の選択必修科目、その他特別講義などで構成されている。

本プログラムを修了するには、「イノベーションリサーチセミナー」、「必修科目」、「選択必修科目」の合計14単位の受講に加えて、論文2本の提出が必要となる。

■ 実績

2025年度在学生 15名

	2024 年度入学	2025 年度入学
社会人学生	3 名	2 名
一橋大学博士後期課程学生	2 名（1 名）	2 名（1 名）
その他（再入学者含む）	1 名	0 名

（）内は経営管理研究科の学生

■ 2025年度の主な成果

5月24日～25日	【日本政治法律学会 2025年度春季研究大会】 学会発表：学生1名 会場：宮崎産業経営大学法学部
6月21日～22日	【2025年度組織学会 研究発表大会】 学会発表：学生1名 会場：九州大学
7月12日～16日	【IPSA 28th World Congress of Political Science】 学会発表：教員1名 会場：COEX（韓国・ソウル）
7月24日～27日	【2025 Annual Meeting of the Society for Business Ethics】 学会発表：教員1名 会場：Copenhagen Business School（デンマーク・コペンハーゲン）
7月25日～29日	【The 85th Annual Meeting of the Academy of Management】 学会発表：教員2名、学生1名 会場：Bella Center Copenhagen（デンマーク・コペンハーゲン）
8月28日～29日	【IIR イノベーションリサーチワークショップ】 会場：一橋大学東キャンパス マーキュリーホール

9月5日～7日	【SciREX サマーキャンプ 2025】 参加：学生4名 会場：政策研究大学院大学
9月6日～7日	【地方行政実務学会 第6回全国大会】 学会発表：学生1名 会場：盛岡地域交流センター「マリオス」
10月25日～26日	【日本政治法律学会 2025年度秋季研究大会】 学会発表：学生1名 会場：大和大学
11月23日～24日	【情報ネットワーク法学会 第25回研究大会】 学会発表：学生1名 会場：一橋大学千代田キャンパス
12月6日～7日	【科学技術社会論学会 第24回年次研究大会・総会】 学会発表：学生1名 会場：常磐大学
3月6日～8日	【情報処理学会 第88回全国大会】 学会発表：学生1名 会場：松山大学

■ 講義

必修科目

「イノベーション研究方法論」春夏学期2単位

青島矢一／カン・ビョンウ／吉岡（小林）徹

科学技術イノベーション・システムの社会科学的研究に必要とされる、定量的、定性的方法論を習得するための講義を行う。

「イノベーションと経営・経済・政策」春夏学期2単位

青島矢一／軽部大／江藤学／中島賢太郎

科学技術イノベーション・システム（科学技術及びイノベーションのプロセス、メカニズム、効果等）を社会科学の側面から俯瞰的にとらえるための講義を行う。

「先端科学技術とイノベーション」秋冬学期2単位

青島矢一／江藤学

社会科学者と最先端の技術者・研究者の組み合わせによるオムニバス形式の講義を行う。

「イノベーションリサーチセミナーⅠ」春夏学期2単位

青島矢一／江藤学／吉岡（小林）徹

関係教員全員参加による集中演習。分野横断的な視点から研究指導を行う。

「イノベーションリサーチセミナーⅡ」秋冬学期2単位

青島矢一／江藤学

関係教員全員参加による集中演習。分野横断的な視点から研究指導を行う。

選択必修科目 ※経営管理研究科（研究者養成コース）と共通（Ⅲ-1.参照）

「イノベーション経済特論」春夏学期2単位

中島賢太郎

「知的財産特論」春夏学期2単位

江藤学

「イノベーション経営特論」秋冬学期2単位

軽部大

「イノベーションと政策・制度」秋冬学期2単位

江藤学

IV. 研究成果および刊行物

R

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research

I

1) 一橋ビジネスレビュー ― 2025年度

イノベーション研究センターでは、研究成果の外部への報告として、機関誌『ビジネスレビュー』を年4回発刊してきたが、経営学とビジネスの現場を結ぶ日本発の本格的経営誌をめざして、2000年9月に『一橋ビジネスレビュー』（東洋経済新報社発行）としてリニューアルした。特集論文、経営学最先端のコラム、本格的なビジネス・ケース、経営者インタビューを掲載、最新の経営理論、経営手法の分析など、経営学の最先端の動きを初心者にもわかりやすい形で提示するよう心がけている。編集委員には一橋大学の教員のほか、他大学の研究者も含まれ、さらには外部企業からも編集顧問を迎えて、現場での実情を加味した内容となっている。

■ 本誌の特色

本誌は、経営学、イノベーション研究分野の研究者、学生、MBA、知的ビジネスパーソンなどを対象とし、以下のような点を特徴とする。(1) 大学の学問と現実のビジネスをつなぐために、知的挑戦と創造的対話の場を提供する、(2) 経営学者等の論文、ケース・メソッドを読むことで経営を考える力を養う、(3) 最新の日本企業のケース・スタディを毎号提供する、(4) 学生、MBAのために経営学のイノベーションの系譜をわかりやすく解説する。また、2007年度よりフロア参加者を募り、年1回程度、「一橋ビジネスレビュー・フォーラム」を開催。第一線で活躍している変革リーダー、経営者、専門家を招いての講演、パネルディスカッションを行っている。

■ 編集顧問

柳井正（株式会社ファーストリテイリング代表取締役会長兼社長）

山海嘉之（筑波大学教授／サイバニクス研究センター研究統括／CYBERDYNE 株式会社代表取締役社長／CEO）

■ 編集委員

学内

米倉誠一郎（委員長） 青島矢一 イバ・パドロン＝エルナンデス 江藤学 加賀谷哲之 加藤俊彦
軽部大 カン・ビョンウ 楠木建 小泉秀人 七丈直弘 鈴木智子 中島賢太郎 中野誠 野間幹晴
藤川佳則 藤原雅俊 松井剛 吉岡（小林）徹 鷺田祐一

学外

浅川和宏（慶應義塾大学） 浅羽茂（早稲田大学） 網倉久永（大妻女子大学） 生稲史彦（中央大学）
糸久正人（法政大学） 井上達彦（早稲田大学） 栗木契（神戸大学） 國領二郎（早稲田大学） 清水
勝彦（慶應義塾大学） 清水洋（早稲田大学） 鈴木竜太（神戸大学） 武石彰（学習院大学） 廣瀬文
乃（立教大学） 延岡健太郎（同志社大学） 藤本隆宏（早稲田大学） 守島基博（学習院大学） 山田
仁一郎（京都大学） 米山茂美（学習院大学） M. Cusumano（マサチューセッツ工科大学 米国）
李 亨五（淑明女子大学校 韓国）

■『一橋ビジネスレビュー』 第73巻1号 2025年6月

○特集「進化するビジネスモデル：未来を切り開く戦略思考」



世界には現在、競合する2つの有力な経済システムが存在する。欧米経済の多くで支配的な株主資本主義と、新興市場の多くで顕著な国家資本主義である。どちらのシステムも、この数十年間、驚異的な経済発展をもたらした。しかし、いずれも社会的・経済的・環境的に大きなマイナス面をもたらしたことも指摘され始めている。行き過ぎた資本主義に警鐘を鳴らすように、ダボス会議をはじめとして、ステークホルダー資本主義が提案されている。ステークホルダー資本主義では、経済と社会におけるすべてのステークホルダーの利益が考慮され、企業は短期的な利益以上のものを求めて最適化し、政府は機会の平等、競争における公平な土俵、システムの持続可能性と包括性に関して、多様なステークホルダーへのより公平な貢献と分配の守護者となることが求められる。本特集では、資本主義

を再考し、資本主義の未来について検討する。企業は、財務リターンの最大化を追求すると同時に社会の公器としての役割を果たすには、どうあるべきか。これからの社会で求められる企業やリーダーの役割を議論する。

○特集論文

藤原雅俊「ビジネスモデルのダイナミズム」

井上達彦／近藤祐大／坂井貴之「『強いビジネスモデル』についての実証調査：進化のカギを握る成功のレシピ」

琴坂将広「経営戦略研究の新潮流から『ビジネスモデル』を再考する」

仮屋蘭聡一／高原康次／中村香央里／吉田晃宗「投資家は企業のビジネスモデルのどこに注目するのか」

矢部謙介「ビジネスモデルを読み解く上でなぜ財務諸表が重要なのか」

○連載

島貫智行「戦略人事の考え方（7・最終回）：人事部門の戦略的トランスフォーメーション」

生稲史彦「コンテンツビジネスから見る世界（3）：技術とコンテンツを取りまとめるビジネスの役割」

積田淳史「ビジネス・ケースの美味しい読み方（1）：ビジネス・ケースを味わう：メインに、サイドに、デザートに」

塚原直樹「産業変革の起業家たち（23）：カラスの音声研究の第一人者に起業を決心させた産学連携の難しさ」インタビュー 青島矢一／藤原雅俊

○ビジネス・ケース

久保田達也／陰山孔貴／塩谷剛「NTT西日本：共創を生み出すユニークな場の創出」

岸下ひとみ／塚口あゆ美／藤井勇成／森井孝則／柳瀬拓弥／吉田浩章／青島矢一「今治タオル工業組合：『奇跡のタオル』の背景にあった組織変革」

酒井健／藤岡詩音／坪山雄樹／遠藤貴宏「佐久：伝統とビジネスイノベーションの相互作用」

○マネジメント・フォーラム

谷口恒（ROBO-HI 株式会社 代表取締役社長）

「ロボットにとって住みやすい街をデザインする」

／インタビュー 井上達彦／藤原雅俊

■『一橋ビジネスレビュー』 第73巻2号 2025年9月

○特集「組織マネジメントの光と影：新しい働き方への施策を再考する」



会社は従業員を守り、従業員は会社に忠誠を誓うという組織と個人の関係は、日本の組織社会において大きく変化を遂げてきた。変化の激しい市場環境に適応するため、日本企業は組織自体の変革を促し、それとともに人々の働き方も変化してきた。また、組織は社会にも従う。子育てや介護、働きがい、キャリアの重視やハラスメントへの対策など、さまざまな社会規範の変容に応じて、組織は変化を求められている。これらの変化の実現に向け、デジタル技術の活用を通じて職場や組織を変革しようとする動き（IT化・DX化）もある。このように、さまざまな変化に主体的かつ追われるように対応してきた企業にもたらされたものは光だけであろうか。光が当たる所だけを見ると、その反対側にできる影には気づきにくいものだ。本特集では、組織マネジメントの光と影の両面に焦点を当て、近年における組織と個人、それぞれの変化を改めて考察する。

○特集論文

軽部大／内田大輔／藤田康男「メンタル不調からワークとライフの関係を再考する」

辰巳哲子「集まる意味を問い直す：リモートワーク以後の関係構築とマネジメントの再設計」

古屋星斗「あの若手はなぜ『辞めない』のか：定着か離職かの二項対立を超えて」

吉崎雅浩／鈴木竜太「組織への期待が生む不本意な在職者」

砂口文兵／鈴木竜太「組織変革の推進と停滞のダイナミズム」

○特別寄稿

マイケル・A・クスマノ「生成AIとDeepSeek：中国からの新たな競争によるグローバル・イノベーション・プラットフォーム」

○連載

生稲史彦「コンテンツビジネスから見る世界（4・最終回）：ビジネスと技術、培われた人材と感性の戦略的活用」

積田淳史「ビジネス・ケースの美味しい読み方（2）：ビジネス・ケースを味わう：自分だけのコース料理を仕立てよう」

平野未来「産業変革の起業家たち（24）：意志を持ってAIを活かし、幸せな働き方を実現する」

インタビュアー 青島矢一／藤原雅俊

○ビジネス・ケース

米満東一郎「横浜市：『待機児童ゼロ』に向けた2度の挑戦」

軽部大／宮澤優輝／藤田源太郎「あいや：茶業界をグローバルな視点で革新する」

○マネジメント・フォーラム

井上慎一（全日本空輸株式会社代表取締役社長）

「LCCの立ち上げから巨大組織のトップへ。ワクワクしながら仕事ができる組織をつくる」

／インタビュアー 米倉誠一郎

■『一橋ビジネスレビュー』 第73巻3号 2025年12月

○特集「日本企業の R&D とイノベーション：知識創造とビジネスの新結合」



R&D（研究開発）は、新しさを生み出すための組織的な活動であり、ビジネス機会の源泉である。しかし日本企業では R&D が戦略とうまく結びついていない。近年、オープンイノベーションが広まり、新しい知識を外部から取り入れることの重要性が喧伝されているが、自社の R&D を削って外部の知識に頼ると、中長期的な成長は見込めない。また、外部からの知識を効果的に吸収する能力も低下してしまう。グローバルに見ると、企業は基礎研究を増やすなど、R&D が見直されている。日本企業にとっても、R&D をより密接に経営戦略と結びつける時期に来ている。本特集では、日本を代表する企業の実務家とイノベーション経営の研究者の知を結集し、新たな R & D 投資が大きな可能性を広げられることを提案する。

○特集論文

清水洋／鉄川弘樹「新しいビジネス機会の源泉としての研究開発：日本企業の課題と展望」

高田直樹「中央研究所の時代は終わったのか：終焉の言説を顧みる」

白神浩「持続的イノベーションで未来を共創する、志と科学の経営：味の素グループの戦略的アプローチによる経営変革」

久保田達也／陰山孔貴「コア技術の創発的横展開：村田製作所の『にじみ出し』による革新的製品の創造」

牛久祥孝「AI ロボット駆動イノベーションの源泉を作る」

鉄川弘樹／山内裕／高田直樹「企業における研究と経営の再定義：不確実な時代をどう乗り越えるか」

○連載

清水たくみ「デジタル時代の組織戦略（1）：デジタル技術と共進化する組織と働き方」

積田淳史「ビジネス・ケースの美味しい読み方（3）：ビジネス・ケースを味わう：理論で仕立てるコース料理」

宮谷聡「産業変革の起業家たち（25）：早く起業して、さらに大きな挑戦へ。建設 DX から始まる起業家の道」

インタビュアー 青島矢一／藤原雅俊

○ビジネス・ケース

軽部大／内田大輔／山田仁一郎「ヘラルボニー：違いを価値に」

桐山智光／腰原茂弘／佐藤和／二木康裕／西阪卓／坂東淳子／山下慶子／青島矢一「コブレック：『工場を、誇ろう。』プロジェクトによる製造業のリブランディング」

○マネジメント・フォーラム

岡野原大輔（株式会社 Preferred Networks 代表取締役 最高技術責任者）

「VC 的な発想で研究開発の勝率を高める」

／インタビュアー 米倉誠一郎／清水洋

■『一橋ビジネスレビュー』 第73巻4号 2026年4月

○特集「コツコツ儲ける企業の秘密：ビジネス実験の累乗が生み出す競争力」



グローバル企業では、MBA が経営者の共通の教養になり、経営学の常識を知るだけでは競争力は高まらない。データ分析の技術の発展により、よほどユニークなデータがなければ差別化はできなくなった。そうしたなかで、新しいマネジメントやマーケティングの手法、新しい製品・サービスを科学的に試し、有効な選択肢を選び抜くことで、他社より一歩有利な立場に立つことができる。ところが、実験には落とし穴もある。やり方を間違えるとかえって競争力を下げてしまう。本特集では、企業が競争力を実現するビジネス実験について、その可能性と実例を紹介する。

○特集論文

及川直彦「実験に基づく予測分析とは何か：因果関係と、インパクトにつながる施策を正確に見極める」

吉岡（小林）徹／平井祐理「ビジネス実験ができる企業の基盤：ビッグデータの利活用をめぐる組織能力研究からの示唆」

川太悠史「企業内 RCT と施策評価：設計・分析手順と最新動向の整理」

内藤拡也／マイケル・プライス／牧 兼充「障害者雇用による従業員の多様性が職場に与える価値」

峯藤健司／エリック・フロイド／牧 兼充「スタートアップは『選ぶ』と集まらない：コーポレート・アクセラレータ・プログラムにおける応募方式のフィールド実験」

○特別寄稿

リック・H・L・アールバース「連合から所有へ：製薬業界における持続的イノベーションのための戦略的提携と知的財産マネジメント」

○連載

清水たくみ「デジタル時代の組織戦略 (2)：デジタル技術への投資を経営成果に結びつける」

積田淳史「ビジネス・ケースの美味しい読み方 (4)：一汁一菜（1 理論＋1 ケース）を振る舞う」

高橋賢「産業変革の起業家たち (26)：飽和市場に風穴を開ける：理論とリアルの対話」

インタビューー 青島矢一／藤原雅俊／カン・ビョンウ

○ビジネス・ケース

鈴木智子／林 文彬／ホフリカ・マレック／グプタ・アキル／呉 元君「星野リゾート：『社員全員がイノベーター』の実践と成果」

青島矢一「HENNGE：多様性を組織の力にする経営」

○マネジメント・フォーラム

赤尾洋昭（株式会社セコマ 代表取締役社長）

「科学的な意思決定をもとに大手とは違うところで戦う」

／インタビューー 米倉誠一郎／吉岡（小林）徹

○第24回ポーター賞

大藺恵美「ポーター賞受賞企業・事業に学ぶ」

The new combinations appear discontinuously, then
the phenomenon characterising development emerges.

Joseph A. Schumpeter
The Theory of Economic Development

編集・発行 一橋大学イノベーション研究センター
〒186-8603
東京都国立市中2-1
TEL 042-580-8411 (代表)
FAX 042-580-8410
<http://www.iir.hit-u.ac.jp>



一橋大学
イノベーション研究センター

Hitotsubashi University
Institute of Innovation Research